

ヘブライ人への手紙

シリーズ～新約聖書入門～広島弁訳聖書

ヘブライ人への手紙

- **宛先はタイトルが語っている通り**
 - ヘブライ人(イスラエル人)クリスチャンに向けて書かれた手紙(著者は不明)
- **旧契約と新契約の違いを説明する**
 - 「神は『新しいもの』と言われることによって、最初の契約は古びてしまったと宣言されたのです。年を経て古びたものは、間もなく消えうせます。」8:13
- **旧契約と新契約に共通する事柄を語る**
 - 「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。昔の人たちは、この信仰のゆえに神に認められました。」11:1-2

イエス・キリストについて

□ 受肉(人となられた)

- 「イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となつて、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。」2:17

□ モーセにまさるリーダー

- 「家を建てる人が家そのものよりも尊ばれるように、イエスはモーセより大きな栄光を受けるにふさわしい者とされました。」3:3

□ メルキゼデクにまさる祭司

- 「このことは、メルキゼデクと同じような別の祭司が立てられたことによって、ますます明らかです。この祭司は、肉の掟の律法によらず、朽ちることのない命の力によって立てられたのです。」7:15-16

完全なる大祭司(仲介者)

- 動物のいけにえではなく、ご自身を献げることで完全な贖いを成し遂げられた
 - 「この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自身を献げることによって、成し遂げられたからです。」7:27
 - 「キリストは新しい契約の仲介者なのです。」9:15
- わたしたちの弱さに同情される大祭司
 - 「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。」4:15

主による鍛錬(訓練)

- 私たちの人生はマラソンのようなもの
 - 「すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、**自分に定められている競走**を忍耐強く走り抜こうではありませんか」12:1
- その間、まことの父が鍛えて下さる
 - 「あなたがたは、これを鍛錬として忍耐しなさい。神は、あなたがたを子として取り扱っておられます。」12:7
- イエス様が最高の見本
 - 「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。」12:2

ヘブライ人の手紙

～堀川寛による広島弁訳～

(広島弁訳の意味) (訳者の解説・蛇足)

第11章

信仰とは、疑わずに望み続け、見えとらんもんを見えとるかのように見つめることじゃ。昔の人ら(旧約聖書の人たち)は、この信仰があつたけえ神様に認められたんじゃ。

信仰によって、わしらはこの世界が神様の言葉によって創造されたこと、つまり見えるもんは、見えん(見えない)もんによってできたことを悟った。

信仰によって、アベルはカインよりも優れたいけにえを神様に献げ、その信仰によって義しいもんと認められた。神様が彼の献げ物を受け入れんさつたけえじゃ。アベルは死んだが、信仰によってまだ語り続けとる。信仰によって、エノクは死を見ずに天に移された。神様があんにを移しんさつたけえ、見えんようになった。そのことで、移される前から神様に喜ばれとつたことが確認された。信仰がなければあ、神様に喜んでもらえんてえ。神様に近づくもんは、神様がおられること、ほいで、神様はご自分を求めるもんらに報いてくれるお方じゃいうことを、信じとらんじゃあいけん。信仰によって、ノアはまだ何も見とらんのに、神様のお告げを受けた時、恐れかこみつつ、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によってこの世を非難し、信仰による義を受け継ぐもんとなった。

信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき土地に行くように命じられると、それに従い、行き先も知らんと出発した。信仰によって、アブラハムは、他国人じゃつたのに、約束の地に住み続け、同じ約束を受け継ぐ、イサク、ヤコブも幕屋に住み続けた。アブラハムは、神様が設計し建築されたゆるがぬ土台の上に立つ都を待ち望んどつたんじゃ。信仰によって、サラは、子どもを生める年齢はとうに超えとつたのに、子どもを授かつた。約束された方は真実な方じゃと信じとつたけえじゃ。ほい

で、死んだも同然の一人の人から、空の星のように、また海辺の砂のように、数え切れんほど多くの子孫が生まれたんじゃ。

こんならあ(この人たち)は皆、信仰を抱いて死んだ。約束のものを手に入れはせんかつたが、遙かに望み見て喜び、自分らが地上ではよそもん(よそ者)で、寄留者じゃ言うてはばからんかつた。そう言うことで、ふるさとに向こうとることを公言したんじゃ。この世のふるさとのことを思つとつたんなら、帰るチャンスはあつたじゃろう。ほいじゃが実際は、あんにははるかに素晴らしいふるさと、つまり天のふるさとを熱望しとつたんじゃ。じゃけえ、神様はあんにらの神と呼ばれることを恥とされず、あんにらのために都を用意されたんじゃ。

信仰によって、アブラハムは、主から試みられたとき、素直にイサクを献げた。約束を受けとつたのに、ひとり子を献げようとした。神様はアブラハムに、「イサクから生まれる者が、あなたの子孫と呼ばれる」と言われとつた。アブラハムは、神様が死者を生き返らせることもできると信じたんじゃ。そういうことじゃけえ、イサクを返してもろうたが、死者の中から返してもろうたも同然じゃ。信仰によって、イサクは、来るべき祝福について、ヤコブとエサウに語つた。信仰によって、ヤコブは死ぬ間際に、ヨセフの息子たちを祝福し、杖に寄りかかって神様を礼拝した。信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骨について指示した。

信仰によって、モーセは生まれてから三ヶ月、両親によって隠されとつた。その子の麗しさのゆえに、王の命令を恐れんかつたけえじゃ。信仰によって、モーセは成人したとき、ファラオの王女の子と呼ばれることを拒み、はかない罪の楽しみにふけるより、神の民と共に苦しむことを選び取り、キリストのゆえに受けるあざけりをエジプトの宝にまさる富と考えた。(目先の喜びより)やがて与えられる報いに目を留めとつたけえじゃ。信仰によって、モーセは王の怒りを恐れず、エジプトを立ち去つた。目に見えん方を見つめながら耐え忍んだんじゃ。信仰によって、モーセは、初子が滅ぼさ

れんように、過ぎ越しの食事をし、小羊の血を塗った。信仰によって、イスラエルの民はかわいた地を歩くように紅海を渡ったが、同じように渡ろうとしたエジプト人たちはおぼれてしもうた。信仰によって、エリコの城壁は、民が七日間回った後、崩れ落ちた。信仰によって、遊女ラハブは、イスラエルのスパイをかくまったけえ、他のエリコの民と一緒に滅ぼされんですんだ。

これ以上、何を話そうか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、また預言者らのことを語ったら、なんぼ時間があっても足りん。信仰によって、こんには国々を征服し、義しいことを行い、目的を達成し、獅子の口をふさぎ、火の勢いを消し、剣の刃を逃れ、弱かったのにつよう(強く)され、戦いの勇者となり、敵軍を敗走させた。女たちは、死んだもんをよみがえらしてもろうた。他のもんらは、更にまさった命によみがえるために、解放されることを拒み、拷問を受け入れた。また、他のもんらはあざけられ、鞭打たれ、鎖につながれ、牢に入れられた。またあるもんらは、石で打ち殺され、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、革の衣を着て放浪し、食うに困り、苦しめられ、ひどい目に遭い、荒れ野、山、岩穴、谷底をさまよいるいた。この世はふさわしゅうなかつたんじやのう。

ほいで、こんには、信仰によって神様に認められたんじやが、(地上では)約束されたもんを得られんかった。神様は、わしらのために、さらにすぐれた計画をもっとってじゃった。あんには(旧約聖書の人々)もわしらと一緒に(イエス・キリストによって)完全にされたんじや。

第12章

ほいじゃけえ、わしらもまた、こがいにようけえ(このように多く)の証人に雲のように囲まれとるんじやけえ、いっさいの重荷や、絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に与えられとる競争をがまんづよう(強く)走り抜こうじゃないか。信仰を始められて完成されたイエス様から目を離しんさんな!イエス様は、やがて与えられる喜びのゆえに、恥を

もいとわず十字架を耐え忍び、神様の玉座の右に座されたんじや。あんたらあ、落ち込んだ場合じゃないでえ。イエス様が罪人らによってどんだけひどい目にあわされたか、よう考えてみんさい。

あんたらはまだ、罪とたたこうて(戦って)、血を流すほど抵抗したことはなからう。ほいで、あんたらに対してわが子のように語られたこの勧めを忘れちゃあいけん。

「わが子よ、主の鍛錬を軽んじてはいけない。主から懲らしめられても、力を落としてはいけない。なぜなら、主は愛する者を鍛え、子として受け入れる者を皆、鞭打たれるからである。」(箴言 3:11-12)

訓練じゃ思うて忍耐しんさい。神様は、あんたらをわが子のように思うとられる。父親じゃったら子どもを鍛えるんは当たり前じゃらう。鍛えられんとすりゃあ、ほんまの(本当の)子じゃあない、いうことになる。鍛えてくれるこの世の父を尊敬するんなら、(本当の父である)霊の父を敬い、従って生きるのはなおさらのことじゃ。この世の父は、一時、自分の判断で子どもを鍛えるが、霊の父は、わしらのためになるように、ほいで、ご自分の聖さにあずからせよう思うて鍛えてくれてんじや。そもそも訓練いうもんは、そんときゃあ楽しゅうないし、しんどいもんじやが、後になったら平安な義の実が結ばれるんじや。ほいじゃけえ、へばつとらんと、しゃきんとしんさい。よろよろせんと、自分の足でまっすぐな道を歩き続けんさい。

みなと平和を保ちんさい。また、聖さを追い求めんさい。聖うなけらんにかあ、主にお会いすることはできん。神様の恵みから外れることがないように、また、異教の教えに影響されて、ようけのもん(多くの人々)がつまづくことがないように気をつけんさい。ほいで、たった一杯のメシのために長子の権利を棒に振ったエサウみたいになつたらいけん。あんたらも知つとるように、エサウは後になって祝福してもらおう思うたが、拒否された。泣いて頼んだがダメじゃった。

あんたらは、(モーセが律法をいただいた時のような)、燃える火、黒雲、暗黒、暴風、ラッパの音、さらには、耳をふさぎとうなるような大声の響く山に近づいたんじゃない。あん時には、「たとえ獣でも、山に触れれば、石を投げつけて殺さなければならぬ」と命じられとった。その様子があまりにも恐ろしかったけえ、モーセですら、「恐あて、震えが止まらん」言うもつたぐらいじゃ。ほいじが、あんたらが近づくことが許されとるんは、シオンの山、生ける神様の都、天のエルサレム、無数の天使たちの宴会、天に登録されとる長子たちの教会、すべての審判者である神様、完全な人とされた義しいもんらの霊、新しい契約の仲介者イエス様、ほいで、アベルの血よりも雄弁に語る(殉教者の)血じゃあ。

あんたらに語りかけとられる方(神様)を拒んだらいけん。この地上で神様のご意志を語るもんを拒むもんが罰せられるとしたら、天から語りかける方に背を向けたらなおさらのことじゃ。モーセが律法をいただいた時、神様の御声が地を揺り動かしたが、今また次のように約束されとる。「わたしはもう一度、地だけではなく天をも揺り動かそう。」この「もう一度」の時には、決して揺り動かされんもんが残るために、揺り動かされる被造物が取り除かれるんじゃ。わしらは、揺り動かされることのない御国を受け継ぐんじゃけえ、大いに感謝しようやあ!感謝しつつ、畏れ敬いながら、神様に喜ばれるように仕えていこう!わしらの神様は、すべてを焼き尽くされる火じゃ(いうことを忘れんように)。

第13章

主にある兄弟を大切にしんさい。旅人をもてなすことを忘れちゃあいけん。そうすることで、あるもんらは、知らずに天使をもてなした。自分も捕らえられとるつもりで、牢に捕らえられとるもんらを思いやりんさい。また、自分も生身の体をもつて生きとるんじゃけえ、病気のもんらのことを心にとめんさい。結婚関係が尊ばれるように、夫婦の関係を清く保ちんさい。神様は不品行なもん、姦淫

を行うもんをさばかれる。金に執着せん生き方をし、今持つとるもんで満足しんさい。神様は、「わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにほしない」と言われとるじゃないか。ほいじゃけえ、わしらは、こがいに言うことができる。「主はわしらの助け主。わしは恐れん。わしらに何かできるもんはどこにもおらん。」

あんたらに神様の言葉を語ってくれた先生らのことを思い出しんさい。彼らの人生の結末を見て、その信仰を見倣いんさい。イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることはない。いなげな(変な)教えに惑わされちゃあいけん。食べ物によってじゃなく、恵みによって強められんさい。なんぼ食べ物に気をつこうても、(霊的な)益はない。わしらが仕えとるんは(イエス様の十字架いう)祭壇じゃ。(旧約聖書の)祭司じゃけえいうて、そこから(霊の)食べ物をもろう権利はない。なんでかいやあ、(旧約聖書の)贖いは完全なもんじゃいうて、大祭司でも神様に近づくことは許されんかったけえじゃ(意識)。イエス様はというと、ご自分の血でわしらを聖なる者とするために、ゴルゴダの丘で苦しみを受けられ、(贖罪を完成された)。ほいじゃけえわしらは、イエス様が受けられた辱めを担い、ゴルゴダの丘に赴き、みもとに近づこうじゃあないか。この地上には永遠の都はない。わしらは来るべき永遠の都を求めとるんじゃ。ほいじゃけえ、わしらは、イエス様を通して賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえる唇の果実を絶えず神様に献げよう!善い行いと施しを忘れちゃあいけん。これも神様の喜ばれるいけにえじゃあ。

(教会の)指導者の言うことを聞き、従いんさい。あんには、神様に対してあんたらの魂に責任を持ち、心を配つとる。指導者らが嘆くことなく、喜んで仕事に当たれるようにしんさい。そうでないと、あんたらの益にならん。

わしらために祈ってくれんさい。わしらは、恥じることなく、良心に従い、あらゆることにおいて正しく行動したい思うとる。わしが、あんたらの所へはよう帰れるよう、特に祈って欲しい。

<祝祷／広島弁訳にしません>

永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死者の中から引き上げられた平和の神が、御心に適うことをイエス・キリストによってわたしたちにしてください、御心を行うために、すべての良いものをあなたがたに備えてくださるよう。栄光が世々限りなくキリストにありますように、アーメン。